九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学のデータポリシー策定に向けた試み

芦北, 卓也
九州大学附属図書館

https://hdl.handle.net/2324/2244037

出版情報：2019-05-28. National Institute of Informatics
バージョン：
権利関係：

Japan Open Science Summit 2019
C4 機関リポジトリにおける
研究データ公開に向けた取り組み

九州大学のデータポリシー策定に向けた試み

九州大学附属図書館
芦北 卓也
https://orcid.org/0000-0003-1853-7108

2019年5月28日

九州大学

1

背景

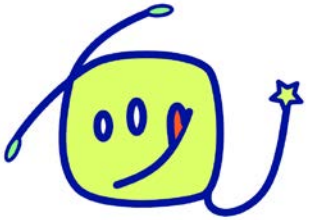
平成27年度

「九州大学
オープンアクセス
方針」作成

平成28年度

「九州大学
オープンアクセス
方針実施要領」
作成

次は？



きゅうと君

2

検討の開始

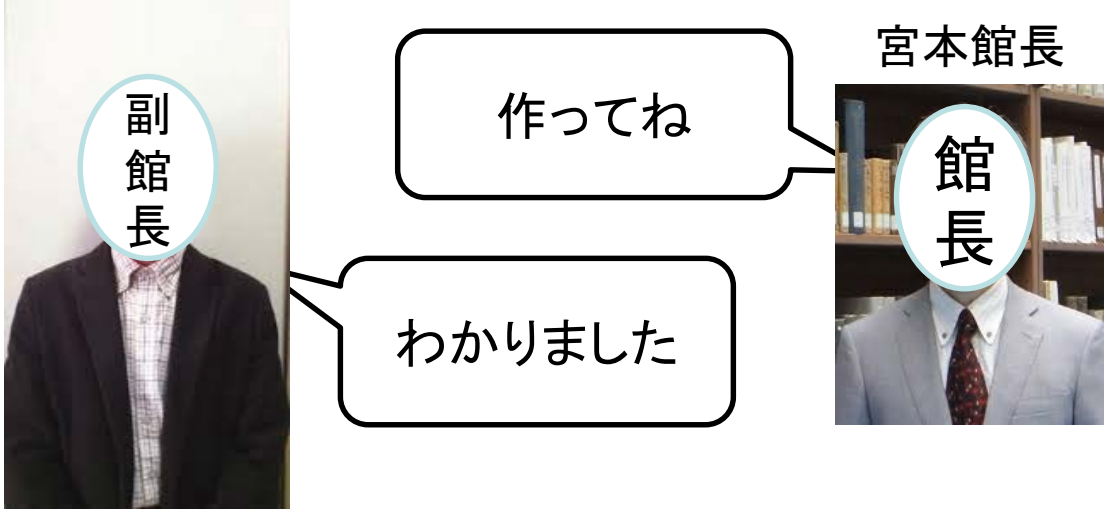
平成30年度: データポリシー策定の準備 (素案作成)

九州大学学術情報リポジトリ専門委員会オープンデータ推進ワーキンググループ

活動内容: 研究データの管理・公開・利活用に関する本学の方針・計画の検討

設置期間: 平成30年10月1日～平成31年3月31日

リーダー: 冨浦洋一教授(副館長)



オープンデータ推進ワーキンググループ

図書館の教員3名、職員3名

- 附属図書館副館長　教授
- 附属図書館研究開発室　准教授
- 附属図書館研究開発室　准教授
- 附属図書館　事務部長
- 附属図書館　係長
- 附属図書館　係長

各専門分野での知見

- 基幹教育院　准教授
- 人文科学研究院　教授
- 人間環境学研究院　教授
- 法学研究院　准教授

文系の教員4名

- 理学研究院　准教授
- システム情報科学研究院　准教授
- 生体防御医学研究所　助教
- 情報基盤研究開発センター　助教

理系の教員4名

これまでの活動、関連イベント

2018/10/23	WG 第1回ミーティング
2018/11/20～22	AXIES年次大会(札幌)
2018/12/4	NII学術情報基盤ミーティング(博多駅)
2018/12/15～16	ALIRG2018 (Asia Library and Information Research Group Workshop)でポスター発表
2018/12/17	WG 第2回ミーティング
2019/1/17	WG 第3回ミーティング
2019/1/29	WG 第4回ミーティング
2019/1/30	シンポジウム「オープンデータと大学」
2019/2/19	WG 第5回ミーティング
2019/3/5	学術研究・産学官連携戦略委員会
2019/3/25	WG 第6回ミーティング

データポリシー素案作成の参考資料

政策文書

- 内閣府　第5期科学技術基本計画
- 文部科学省　学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)
- 内閣府　統合イノベーション戦略

研究助成機関の方針

- オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針
- 日本学術振興会の事業における論文のオープンアクセス化に関する実施方針
- 日本医療研究開発機構（AMED）データマネジメントプランの提出について

ガイドライン等

- 国立研究開発法人におけるデータポリシー策定のためのガイドライン
- 学術機関における研究データ管理に関する提言(AXIES提言)
- 研究データ管理基盤(NII学術情報基盤ミーティング配布資料)

データポリシー素案作成の参考資料

既存のデータポリシー

国立研究開発法人

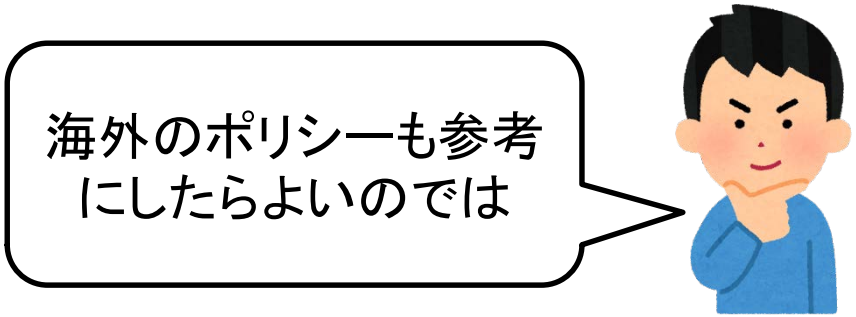
- 海洋研究開発機構データ・サンプルの取り扱いに関する基本方針
- 国立環境研究所データの公開に関する基本方針
- 物質・材料研究機構研究データポリシー

海外大学

- オックスフォード大学
- ケンブリッジ大学

商業出版社

- エルゼビア社
- シュプリンガー・ネイチャー社



【論点】ポリシー策定の目的

内閣府
Cabinet Office

オープンサイエンス推進のために
研究データを公開しましょう

公的研究資金によるエビデンス
データは原則公開しましょう
（でも流出は防ぎましょう）

文部科学省

どちらを全面に押し出す？

研究者にとってどちらが重要？

【論点】ポリシー策定の目的

研究データの保存や開示の学内ルールはすでにあって、義務化されている

- 「国立大学法人九州大学の適正な研究活動に関する規程」
- 「研究データの保存等に関するガイドライン」

海外の商業出版社に研究データを握られて、将来商用利用される可能性はないか
電子ジャーナル高騰化のようになったら困る

エビデンスデータの保存や管理は確実にやらなくては

保存や管理の主体は大学？研究者？

【論点】ポリシー策定の目的

公開することにあまり関心がない
ポリシーを作っても研究データを集められるか

エビデンスデータの保存と管理をポリシーの主目的にして、公開は余裕のある人がやることにすればよいのでは

研究データの公開にも評価のしくみが必要では

理念としてオープンサイエンスを掲げることも重要では？

九州大学学術憲章
「人類と社会に真に貢献し得る研究活動を促進してゆく」

「公開」も重視してほしいなあ

図書館職員

【論点】研究データの定義・範囲

地磁気データを扱っています

ゲノムデータを扱っています

古文書データを扱っています

例示、列挙できる？
各分野の研究者のコミュニティーが決める？

「研究データの種別・内容等について記述する」
(国立研究開発法人におけるデータポリシー策定のためのガイドライン)

内閣府
Cabinet Office

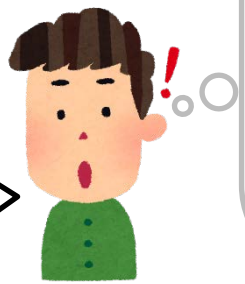
九州大学オープンアクセス方針では「公的研究資金を用いた研究成果」を公開となっている

ポリシーでは「公的研究資金を受けた研究活動を通じて得られたデータ」としましょう

【論点】研究データの定義・範囲

エビデンスデータ保存の
学内ルールでは研究ノート
も対象になっているけど、
ポリシーの対象になる？

研究データ管理プラットフォーム
の導入が前提であれば、アナロ
グデータは対象外では？



ポリシーでは
デジタルのみ
対象にする？

研究データのポリシー？
それともオープンデータ
のポリシー?

【論点】公開に際しての制限事項

公開するにもコストがかかる
すべての研究データを
公開することはできない

エビデンスデータの保存は義務として、
それ以外は公共性や社会的ニーズが高い
研究データについて公開を推奨する？

エビデンスデータの開示についても
ポリシーに盛り込む？

開示と公開の違いは？

【論点】公開に際しての制限事項

契約等で公開制限のあるデータもある

使用権はあるが所有権のないデータは？

アンケート、インタビューなどのデータもある
プライバシーへの配慮が必要

次の4点を公開の対象外にすればよい？

- 共同研究や委託研究の契約等で研究成果の公開に制限があるデータ
- 研究助成団体のポリシーの定めにより公開に制限があるデータ
- 公開によって第三者の権利を侵害する恐れのあるデータ
- その他本学が特別な配慮が必要であると判断したデータ

【論点】研究データの保存・管理・運用

研究データ管理
ってなに？

NIIがシステム基盤を
実証実験中で、2020年から
サービス開始予定

いつでもどこでもデータに
アクセスできる？
データがどこにいったか
もう探さなくてよくなる？

異動や退職後でも大学が研究データを
責任もって面倒見てくれるなら助かる！

ポリシー
に書きま
しょう

【論点】研究データの保存・管理・運用

研究データ管理基盤を
導入するとして、
予算は出るの？

予算が出なくても
エビデンスデータの
管理だけは確実に
やらなくては

管理基盤の利便性が
認めてもらえれば
研究者の受益者負担
にできる？

そもそもストレージ
をどれくらい用意
すればいい？

【論点】研究データの保存・管理・運用

データ管理計画ってなに？

研究助成機関が作成するよう要求してくる
面倒だがしかたがない

唐突に具体的な話になって
ポリシーとしては違和感がある

ポリシーでは触れるだけ
にしては？

簡略化
しましょう

【論点】研究データのセキュリティ、メタデータ、識別子、フォーマット

機密性、完全性、可用性って何のこと？

FAIR原則？　5スターオープンデータ？
メタデータスキーマ？

唐突に具体的な話になって
ポリシーとしては違和感がある

ポリシーでは注釈で説明
することにしては？

注釈を
つけま
しょう

【論点】研究データの帰属

研究データは誰のもの？

実はまだ決まっていないらしい

九州大学
知的財産
取扱規則

研究者が作った
研究データは
研究者に帰属？

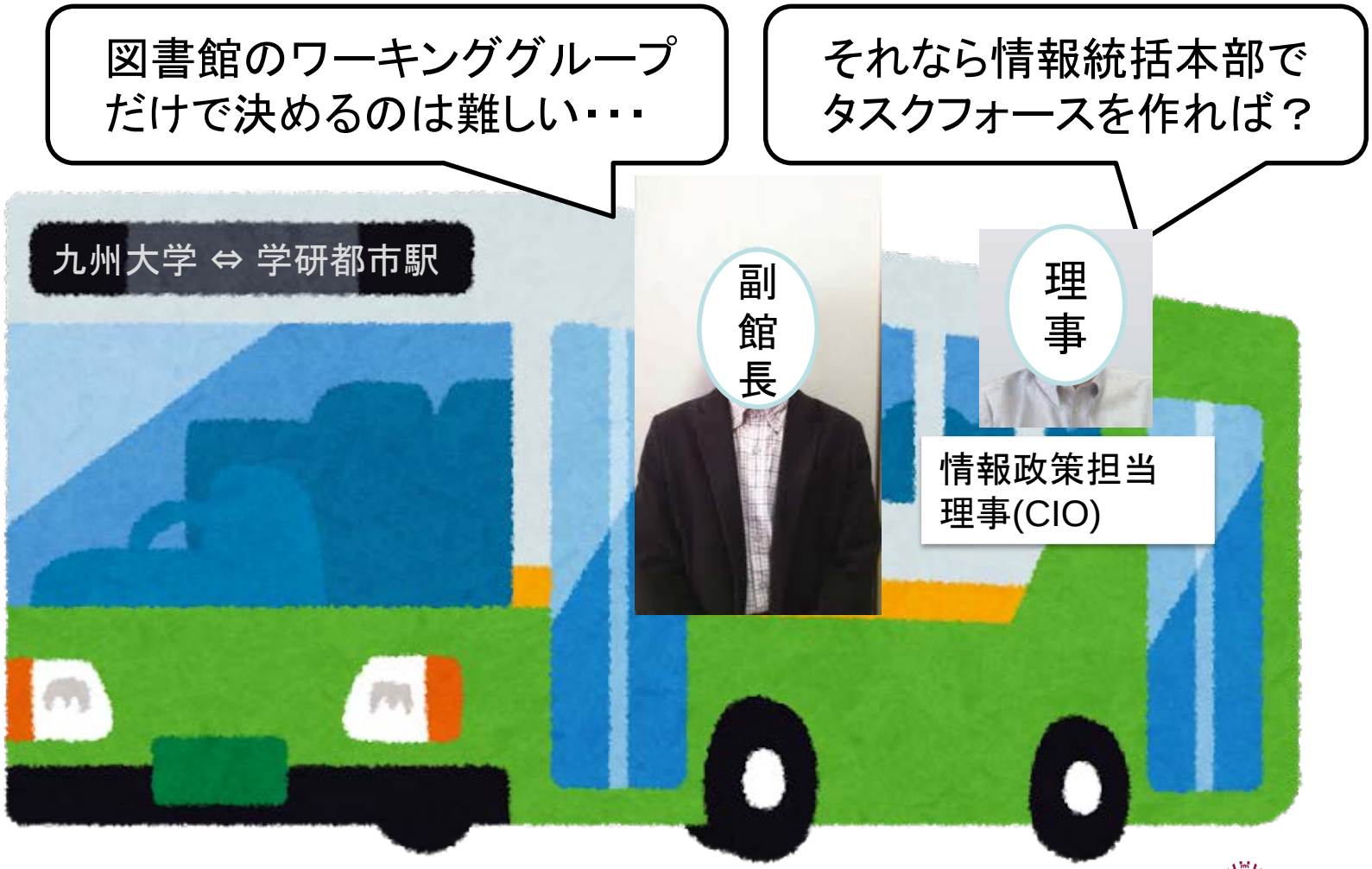
公的資金で購入した
研究データは大学に
帰属？

商用利用可能な
研究データは？

科研費で購入
した場合は？

方針転換

ある日たまたま理事とバスに乗り合わせて･･･



方針転換

2019/3/5　全学委員会（学術研究・産学官連携戦略委員会）で研究データ管理に大学全体で取組む必要性を説明

2019/4/1　情報統括本部に「研究データ管理基盤検討タスクフォース」を設置

※情報統括本部、学術研究・産学官連携本部、インスティテューショナル・リサーチ室、附属図書館の教職員がメンバーとして参加

※リーダーは引き続き冨浦副館長

リーダーやってね

わかりました

情報統括本部長補佐

今後の取組み

2019/5/9　図書館でNII研究データ管理基盤（GakuNin RDM）説明会を開催（講師: NII込山悠介助教）

実証実験に参加し、いくつかの小規模な研究プロジェクトでとりあえず使ってみる

大学として対象とする範囲・規模、管理基盤・公開基盤に求められる要件の洗い出し

研究データマネジメント体制について執行部に提言

※ポリシー案の作成は全学の方向性が定まるまで棚上げ

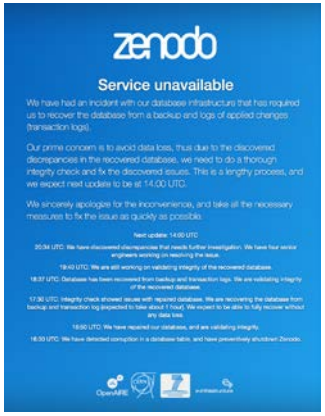
最近のできごと

2019/5/15　研究データを大学の機関リポジトリで公開したいという大学院生が来館

「論文を出版社に提出したら、アクセプト前に研究データを公開するよう求められた」

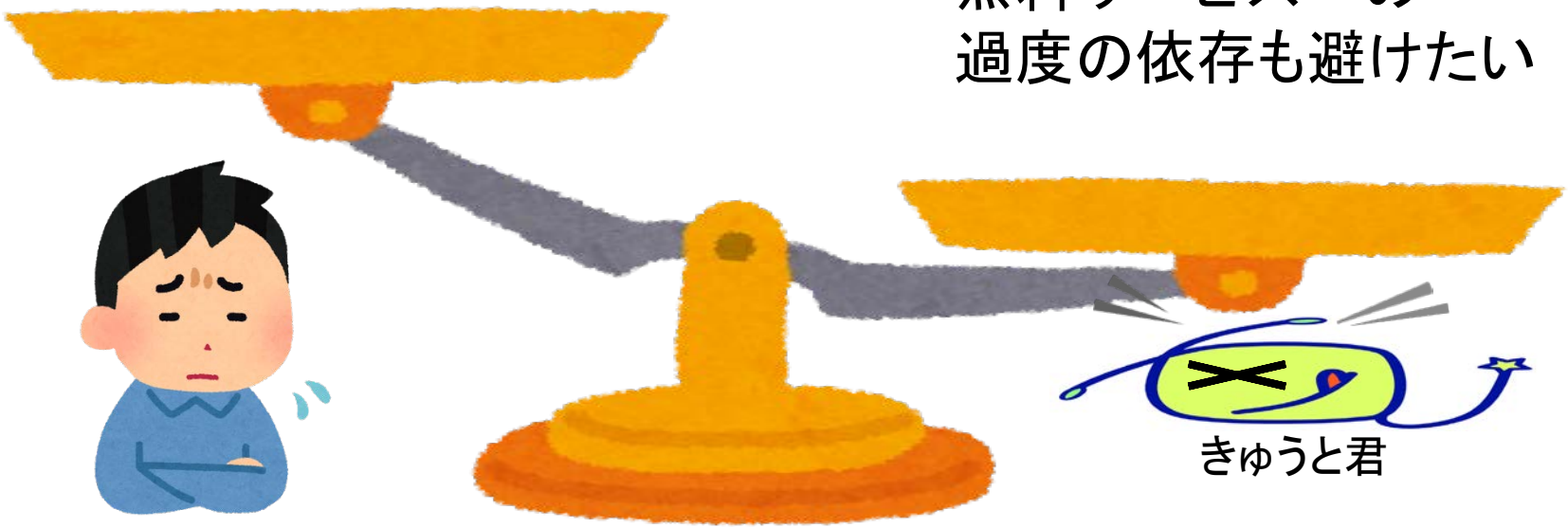
リポジトリではまだ研究データにDOIを付与できない、ストレージが足りない

無料のデータ公開先としてZenodoを紹介
直後にZenodoで大規模障害が発生



おわりに

研究データの管理や
公開のしかたが分からず
困っている研究者が
たくさんいそう

対応するには相当の
コストがかかる

商業出版社や
無料サービスへの
過度の依存も避けたい